

評価体制

FUKUCHIYAMA ROADMAP TOWARDS 2040

(1) まちづくり構想を実行・評価していく体制

本構想については、無作為抽出で選ばれた市民約100人で構成する「福知山市2040年市民会議」からスタートしました。この会議では、「地域の未来予測」をもとに、これからの暮らしに起こりうる様々な課題を市民と共有し、課題に対応するための方向性について議論を行いました。

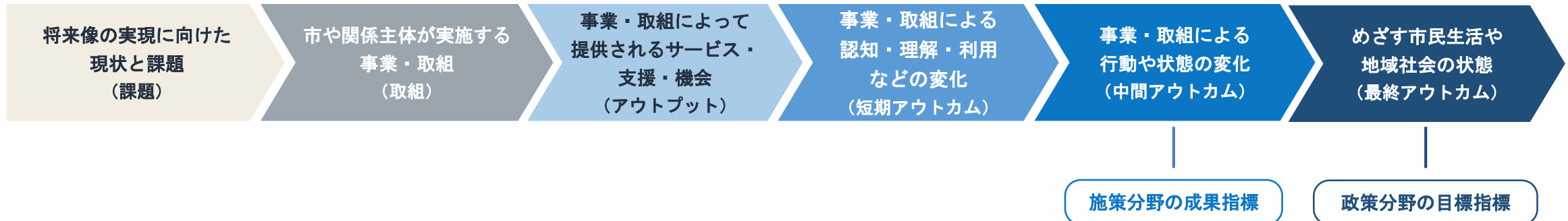
2040年を見据え、みんなで取り組むまちづくりの方向性をまとめたこの構想を実行していくためには、市民と行政が協力して取り組むこと、そして「計画が着実に進んでいるか」を定期的に確認し続けることが重要です。

まちづくりの推進にあたり、市が行う施策については、庁内の各部署において検証を行うとともに、市民の日々の暮らしにおける実感や満足度の変化をまちづくりの成果として確認していきます。その状況や成果は市民と広く共有し、多様な意見を今後の取組に活かしながら、市民の幸せの実現に努めていきます。

計画の進捗を確認する際には、「地域の課題」に対して「どのような事業・取組」を行い、結果として「市民生活や地域がどう良くなるか」という道筋をわかりやすく整理します。そのうえで、最終的にめざすまちの姿を明確にし、その達成度を測るための指標を定めます。

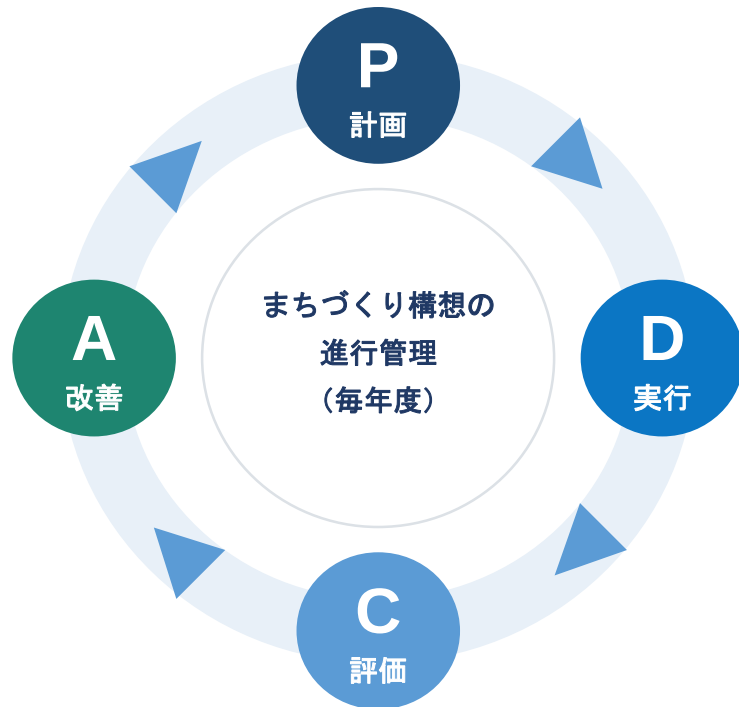
毎年度、これらの指標をもとに成果を確認・検証し、取組の改善につなげるサイクルを繰り返すことで、私たちがめざすまちの将来像の実現へと着実に近づけていきます。

施策の道筋



(2) 毎年度のPDCAサイクル

施策の道筋に沿って定めた指標をもとに、毎年度、計画・実行・評価・改善のサイクルを回します。評価の結果は事業・取組の見直しと次年度の予算編成に反映し、将来像の実現に近づけていきます。



P 計画

指標を定め、各年度に取り組む内容を計画します。

D 実行

予算に基づき、市の事業・取組と、みんなで取り組むことを進めます。

C 評価

指標により進捗と成果を評価します。

A 改善

評価の結果を施策・事業の見直しに反映し、次年度の取組と予算編成につなげます。